

第九回牡丹焚火俳句会募集句の部 入選句

佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	秀逸	秀逸	秀逸	人	地	天	賞 番号	
84	51	45	19	11	106	94	73	75	105	32		
奥羽嶺白きを置きて冬に入る	叩かれて膨るる布団小春の日	秋晴や防災無線試験中	取り入れの山河鎮める秋の月	過疎すすむ郷に子連れの白鳥来	黄金色空へ還して刈田かな	地の襞に橋の骸や照紅葉	紅葉映ゆ御堂にひそと和算額	農夫去りただ一面の刈田かな	蕭条と眠りにつきぬ冬の園	野仏に体温のあり秋夕焼	作品集	伊勢田あきを先生選
北上市	一関市	登米市	登米市	奥州市	一関市	平泉町	一関市	一関市	一関市	奥州市	住所	
高橋サダ子	伊藤けんた浪	高橋武比古	虎川牧子	梅森サ夕	石川恵子	鈴木信	砂金文昭	砂金文昭	稲玉宇平	大石文雄	氏名	

第九回牡丹焚火俳句会募集句の部 入選句

高橋みさ男先生選

作品集

佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	秀逸	秀逸	秀逸	人	地	天	賞 番号	
113	97	56	32	11	53	26	7	86	60	66		
秋行くや父は運転娘はスマホ	黄葉いてふ便りに添えて病む友へ	つむじ風起こしてたてり稲すずめ	野仏に体温のあり秋夕焼	過疎すすむ郷に子連れの小鳥来	臥す母の窓辺にそっと小鳥来る	橙の色はふるさと柿熟るる	川の字に歩む参道七五三	とりどりの菊の香りを束ねけり	稲架組んで仰ぐ洪水水位標	逆光の背でもものいう秋夕日		
北上市	一関市	登米市	奥州市	奥州市	登米市	登米市	奥州市	一関市	登米市	一関市	住所	
小笠原文保	野村ときえ	伊藤勝	大石文雄	梅森サ夕	伊藤勝	佐藤頼夫	加藤次男	伊藤優子	及川奈奈夫	熊谷典夫	氏名	